氏　名　山中 孝文

主論文審査の要旨

《本文》

本論文は、いまだ全容が明らかになっていない戦前の専門学校における土木技術者教育について、土木史研究の分野からアプローチしたものである。論文の新規性は 3 点あり、まず研究対象である第五高等学校工学部および熊本高等工業学校を土木技術者教育機関の中に位置づけした点、次に教育内容、特に約 1,000 名分の卒業設計をアーカイブして分析し、土木技術者教育の全体像を明らかにした点、最後に約 600 名の卒業生の就業状況を分析することで、専門学校卒の土木技術者像を明らかにした点である。

第 2 章では、戦前に高等専門学を教授した官立土木技術者教育機関の中での第五高等学校工学部および熊本高等工業学校の位置づけを明らかにしている。まず、土木技術者教育機関の変遷について整理し、両校とも全国で活躍するための土木技術者を養成する学校の初期にあたることを明らかにした。また、教育目的は実地を想定した高等の学術と技芸を身に付けるものであったことを示した。さらに、卒業生に授与された称号「工学得業士」について整理し、戦前に 3 校でしか授与されなかった極めて稀なものであったこと、1925（大正 14）年時点で、官立土木技術者教育機関の全卒業生約 3,400 名の内、30%程度を占めていたことを明らかにした。

第 3 章では、第五高等学校工学部と熊本高等工業学校における土木技術者教育、特に実習教育に着目し、その内容を明らかにしている。まず、学科課程と指導教員の変遷を整理し、教育目的に加えて学科課程や教員も実地を想定した体制が組まれており、実習教育が重要な位置を占めていたことを明らかにした。次に、校外実習や卒業設計の内容を分析し、戦前の土木技術者教育が 3 期にわけられること、各期で養成する土木技術者像が異なることを明らかにした。

第 4 章では、卒業生の動向を分析することで、卒業生の就業状況について全体像を明らかにしている。まず、卒業時の進路と勤務先の変遷を整理し、地方官庁に勤務した者が最も多く、毎年 20%程度が各地の官庁に属していたということを明らかにした。次に、卒業生の個人史を整理し、土木事業ごとに勤務先を移り変わることは一般的だったこと、それにより各地の近代化を推し進めたこと、次の勤務先へ移るきっかけには様々なパターンがあったことを明らかにした。

第 5 章では、本論文の成果を整理し、五高工学部・熊本高工でなされた土木技術者教育に対する考察・評価をおこない、戦前の土木技術者教育研究、さらに今後の土木技術者教育への展開に向けた課題を示した。

以上の研究成果から、本論文は土木史研究の論文として、詳細かつ正確な調査、記述に裏打ちされたもので、質の高いものである。また、今後の土木技術者教育のあり方を考えていく上で有意義な研究である。これらの成果は、工学的に高く評価でき、博士（工学）の学位を授与するに十分値するものと認められる。

審査委員	環境共生工学専攻	社会環境マネジメント講座	教授	小林 一郎
審査委員	政策創造研究教育センター		准教授	田中 尚人
審査委員	環境共生工学専攻	社会環境マネジメント講座	准教授	星野 裕司
審査委員	環境共生工学専攻	人間環境計画学講座	教授	伊藤 重剛